

2024年3月18日
株式会社シーエス・ワンテン
株式会社日本ケーブルテレビジョン

2023年度 CNNj 番組審議会議事録

- 開催年月日：2024年3月18日
- 開催場所：株式会社日本ケーブルテレビジョン第2会議室
- 参加者 審議委員総 8名
出席委員数 7名
書面参加委員数 1名

(委員)

- 委員長 小池 生夫 (慶應義塾大学および明海大学名誉教授・言語学博士)
委員 大宅 映子 (評論家)
委員 石川 次郎 (編集者 (株)ジェイアイ社長)
委員 吉永 みち子 (ノンフィクション作家)
委員 小西 克哉 (キャスター)
委員 稲生 衣代 (青山学院大学教授)
委員 国府 弘子 (ピアニスト・作編曲家)
委員 パトリック・ハーラン (パクソン) (タレント)

(衛星基幹放送事業者：(株)シーエス・ワンテン)

代表取締役社長 福田 泉
編成局長 中口 裕丈

(番組供給事業者：(株)日本ケーブルテレビジョン)

代表取締役社長 川島 保男
取締役 (メディアビジネス局担当) 山本 陽一
メディアビジネス局長 鈴木 隆泰
メディアビジネス局メディアビジネス戦略部長 黒川 正明
総務局長 鈴木 正市
人事・総務部長 城戸崎 ゆり

4. 審議番組

(1) ザ・ホール・ストーリー「陰謀論 JFK 生存を信じる人々」 日本語字幕版 (45分)

The Whole Story with Anderson Cooper: Waiting For JFK: Report From The Fridge

放送日時 : 2024年2月10日(土) 15時~

「ジョン・F・ケネディとジョン・F・ケネディ・ジュニアはまだ生きている。彼らはイエス・キリストの子孫である」という陰謀論に囚われた人々を取材。

ジョン・F・ケネディ・ジュニアからかかってきた電話を信じる人。州兵が襲ってくるから備えなければならないと主張する人。金銭や家族など多くを失っても陰謀論を信じる人々の考えを紐解く。

<委員意見>

*JFK が生きていると信じている人の存在は聞いていたが、情報が幾らあっても様々な主張をされても、現実的ではなく信じようがない。信じていない人を説得する気もないらしいが、彼らの主張には困惑してしまう。

*面白いと同時に恐ろしくも感じた。字幕放送だったので、同時通訳よりも落ち着いて見ることができて理解できた。一種のカルト集団の話ではあるが、アメリカは大丈夫だろうかと危機感を募らせた。失業者だったマイケル・プロッツマン氏は、どのようにして神の言葉を伝える伝道師にまで成り得たのか？ そしてプロッツマン氏は亡くなってしまったが、この先どうなっていくのか、この続きを知りたいと思った。

*非常に面白かった。ドニー・オサリバン記者はトランプ政権時代から突撃取材で伸してきた記者だ。相手との対決姿勢ではなく、事実を示して視聴者に考えさせることに長けている。陰謀論は米国の独立以前から存在してて、また新たな陰謀論が出現したという話ではあるが、陰謀論に囚われた人が家族にどのような惨劇を与えるのかを描いていることが新しい。俯瞰的なだけでなく現代的な意味を持っていると思えた。プロッツマン氏の出現は、2015年以降にリベラル政権が貧困層を見放した結果だとも言えよう。マクロ経済的状況とミクロの家庭の悲劇を立体的に表現させていて現代的だと感じた。

*長期に渡る丹念な取材の効果で、番組に引きこまれた。プロッツマン氏の母親が息子の死後、支持者に家族のもとに帰るよう語り掛けていた事や、他の支持者の家族がこの問題に向き合うために誠実にインタビューに応じていた点が印象的だった。プロッツマン氏のSNSフォロワー数が8万人とのことだが、プロッツマン氏のグループに関する客観的なデータの裏付けがあると更に理解が深まったのではないかと思う。

* トランプ前大統領は JFK Jr. と関係しているとするカルト信者の話を伝える中、JFK と JFK Jr. が紛らわしい表現が続いた。また、プロッツマン氏のホテル滞在費について、取材先から”噂情報”しか聞き取れていないのであれば、それは放送しない方が良いと思う。番組は英語表現が現在進行形で進むが、途中でプロッツマン氏は亡くなっているという展開になる。この放送以前に既に亡くなっているのに、アンカーのアンダーソン・クーパーは冒頭から過去形で伝えるべきである。日本語字幕については、「Moonies」が「旧統一教会」と表示されていたが、当時の「統一教会」ではないか。

* このような人々の出現は、アメリカ独特のものではなく、過去の日本に於いても、時代によって神社を建てたり、仏様として崇められたりする人物が存在してきた。この番組の内容は特殊な現象であるが、人間の性がこのような形で表れているのだらうと思う。

* とても面白かった。彼に限らず有名な歌手がキリストの子孫だったと言う噂もある。

* 正直言って、終始、"ある種のアメリカ人の不気味さ"を感じながら見終えた。このテーマは普通の日本人にとってはまったく理解できないだろうし、ほとんど興味も持たれないと思う。したがって番組審議会で取り上げる意味が問われるのではないだろうか。

(2) 「特別番組 都市生活の未来 #4」日本語同通版 (24分)

The Next Frontier 4

放送日時 : 2023年6月10日(土)13時30分~

AI チャットボット、仮想キャンパスのメタバーシティ、バーチャルリアリティの整形外科手術トレーニングプログラム、ゲーム要素を応用して意欲向上を図るゲーミフィケーションなどを紹介。未来の教育を変えようとしている教育関係者や開発者、イノベーターたちに取材します。

<委員意見>

* 単語の意味が難しい。AI は今後も進化して投資も増えるだろうが、人間は AI で本当に幸せになれるのだろうか。AI や自動操縦にコストがかかるため、年々EV (電気自動車) に前向きな人が減少している。生活が便利になれば良いのだろうか。どこかで歯止めをかけないと、とんでもないことが起こりそうな気がするの、そのような視点があることも忘れないでもらいたい。

* 面白かったが、リアリティが自分の中で無く、話についていくのが大変だった。いつも

の同時通訳よりも分かりやすかったが、単語や内容が理解できない。また、二重否定の表現があり、肯定か否定かが分からなかった。AI は正しく設定することによって得られるメリットは伝わってきたが、そうではない時、どうになってしまうのか。AI の進化で人間は逆に退化していくのだろうか。その懸念が示されている間は大丈夫だろう。しかし便利さに慣れて、この声が消えた時に想像もつかない事態が起きるのではないかと不安に思う。

*面白かった。「New Frontier」は限られた短時間で新しい技術や世界を紹介する番組なので、AI の悪影響や否定的な意見を述べることは無い。初めてメタバシティという概念や大学内で授業が受けられるという事も実感できた。医学教育で解剖などの学習が3D でできれば学生にとって安価となるだろうし、実際の検体が無くてもできる。財政的に施設を設けられない国や地域にこの技術を活用するのも有効だろう。AI は教師の仕事の補完として良いだろうし、教師はもっと本質的、人間的な仕事に専念できるだろう。一方、ハリウッドでは AI の活用により脚本家の賃金低下が懸念され、ストライキが発生した。これと同様に、米国の教師たちにも同じような懸念が生じるのではないかとも思った。

*AI や VR を活用する教育現場を紹介する番組で、一見、事例の内容が難しそうだが、専門家による現状分析が分かりやすく、理解が深まった。小学校でのチャットボットのケースがきわめて興味深く、個人情報を守る取り組みもなされているということも分かった。

*分かりやすく興味深かった。最先端の技術を知りたいと思った。コードネーム (和音記号) 等の音楽、ダンスや楽器の操作等を生徒に教える事は AI が活用できるだろう。しかし、パフォーマーの世界に携わる身としては、人の心を揺さぶる、Groove 感や Emotion については、人間は AI に負けないという絶対的な自信を持っている。医学生が AI で手術の練習を行っていたが、実際の人間の身体や筋肉を触るのと AI での操作ではどう違うのか、学生に聞いてみたいと思った。

*面白かった。コストはかかるだろうが、リモコンの d ボタンを押せば「AI とは」「Q アノンとは」等を解説してくれる機能があれば日本の視聴者にも喜ばれるだろうと思う。「New Frontier」はマイナス面を紹介しない番組だが、自分は AI に関しては慎重派で脅威も感じているため、AI に関する注意点や心配な事も紹介してもらいたいと思った。AI は眠そう生徒を見たら休憩するよう提案してくれるが、人間の教師は言ってくれないので少し悔しく思った。

*日本の教育現場では AI をどう扱っていけば効果的に深く学習できるかを検討している。しかし、AI 導入のための予算も計画も各自治体の教育委員会で異なるため、地域によって差がついてしまう。また、AI の知識を習得して経験を積むことが教師の負担ともなり、知

識の幅も広げることが必要になる。それが教育体系が変わってくる話にも繋がりがねない。AIによって教育現場が改善していくのか、混乱の基になるのかは未知である。

*今回もナレーションに違和感を感じる。同時通訳者にリポーター、インタビューされる人等、全ての音声を担当させるのは無理がある。常にひとりの人間の声で番組が構成されていることで、かえって集中して番組を見ることが出来ないのはまことに残念。緊急のニュースではないものは、しっかりしたナレーションで見たいものだ。

5. その他、CNNの報道についての意見

*過去1年間に様々な出来事があったが、イスラエルとガザ問題についてのCNNの報道について、当初のCNNの報道は、イスラエルに配慮し過ぎであると感じた。バイデン政権の変化に伴い、ガザの非人道的な報道が少しずつ伝えられるようになったが、アメリカのメディアが如何にイスラエル寄りか。他国のメディアに比べるとCNNはガザの非道な報道に於いて、かなり対応が遅れていて不満を覚えた。政権の微妙な風向きを感じて偏った報道をしていると見えることが寂しい。

*日本のメディアにも責任をもってほしい。今までも日本は中東問題から目をそらしてきた。国際社会も注目して危機感を持ってもらいたかった。日本も世界も常に中東問題に圧力をかけてこなかったために、攻撃と戦争が起きてしまったと考えられる。

6. 番組基準の変更について

「民放連 放送基準」が令和6年4月1日付にて一部改正されるのに伴い、「株式会社シーエス・ワンテン番組基準」を変更することが説明され、「妥当である」との答申があった。

7. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置その年月日

ローカライズの手法について、引き続き検討を重ねる

8. 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法、及び年月日

2024年4月以降に、ホームページに審議会概要を掲載、公表する予定。

以上